

□ 次の問題に答えなさい。

(1) 次の〓線にあてはまる漢字と同じ漢字が含まれているものを、下から一つ選び、記号で答えなさい。

・筋肉がシユウシユクする。

ア	シユウチの事実だ。
イ	テレビをシユウリする。
ウ	シユウトク物を届ける。
エ	シユウシを決算する。

(2) 「月」と同じ成り立ちの漢字を、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 花 イ 三 ウ 上 エ 牛

(3) 「店」の部首の持つ意味を、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人の頭・顔 イ 家・屋根 ウ 力・働き エ 道・歩行

(4) 次の〈例〉のように、□に共通する漢字一字を入れて、それぞれ二字熟語を完成させましょう。□にあてはまる漢字一字を書きなさい。

〈例〉 仲裁 洋裁 國判 國断

・移□ □落 □身 運□

(5) 「急行」と同じ構成の熟語を、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 早退 イ 発声 ウ 温暖 エ 日照

(6) 漢字が正しく使われている四字熟語を、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 言語同断 イ 自休自足 ウ 誠心誠意 エ 画田引水

(7) 次の文の□にからだの一部を表す漢字一字を書きなさい。

・彼の歌には同級生たちも□を巻いた。

(8) 次の俳句によまれている季語と季節を書きなさい。

ひつばれる糸まつすぐや甲虫 (たかのすじゅう 高野素十)

(9) 次の文の〓線の語が直接かかっている語を、文中のア——エ——から一つ選び、記号で答えなさい。

・ゆずの実はよく洗ってから、黄色い皮だけをごく薄くむきとります。

(10) 線の敬語であやまった使い方をしているものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 私は山田愛子と申します。
イ お客様からお花をいただきました。
ウ その話は先生からうかがいました。
エ 父は今出かけていらつしやいます。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(これまでのあらすじ) 「私」は、母、姉、妹たちとともに、小さな貸別荘でひと夏を過ごすことになった。ある日の夕食後、「私」と姉は、海浜でもよおされるといふ映画を、二人だけで見に行くことにした。

その夏の一夜、私はこれまでの人生の中でも、もっとも美しい光景を見ることができた。同時に、¹わが人生の最高の一刻とも言っべき、歓喜と誇りを味わうことができたのだ。もとより、それはあくまでも子供心のみに感じたことかも知れないが。

その夜は海浜で映画がもよおされることになった。

私と姉は夕食を^①済ますと、すぐそこへ行ってみた。母はついて来なかった。どうせつまらぬ映画だと決めこんだからかも知れない。そういう点で、いつも母の言動は実にきつぱりしていた。また小学生の子供を親の監視なしで遊びに行かせることなど平気であった。

私の記憶の中では、確か姉と二人だけでいたように覚えている。兄と妹は学校か何かの都合で、その日はいなかったとしか思われぬ。砂浜の一隅に丸太が組まれ、その間に夜目にも白い布があるかないかの風にゆらめきながら^②張られようとしていた。要するに白幕にこちらから映写機を向けるというちゃんな映画なのであった。

一方、砂浜と陸地の間には、葦簾がけの小屋がずらりと^③並んでいた。氷屋とか焼トウモロコシの店、さては射的屋とか弓屋などの小屋である。映画会があるから特に出たものではなく、夏の間はこの海水浴場にも見られる食物や娯楽売店であった。裸電球の光がまばゆく照り輝き、かえってその粗末な小屋の列を貧相に見せていた。その中で、森永の売店だけがひととき大きく、ネオンサインをつけていた。その明滅する赤と緑のどぎつい光は、かなり離れた黒い海にまで映えているのだった。

映画がなかなか始まらないので、私と姉は波打際へ行ってみた。

そして見たのだ、黒い海が一面に青白い光輝に満たされているのを。それはお伽の世界の燐光と言ってよかった。^④幼い魂を心底から驚愕させるに足る妖しい輝きであった。

これは夜光虫だ、と胸をときめかせながら私は思った。その現物に会うのは初めてだったが、それまでに少年読物か人の話かで、夜光虫という言葉だけは知っていたらしい。それにしても、夜の海辺へ散策に来ることも少なくなかったのに、夜光虫を見るのは初めての体験であった。しかも暗い広大な海をおおう大群にいきなり出会ったのだ。

二歳違いの姉は或いはもう女学生になっていたかも知れない。そんな彼女もセーラー服のスカートを持ちあげて、波打際でぼんやりとこの光輝に見入っていたようだ。²私たちが何か言葉を交したかどうかはすっかり忘れてしまっている。

昆虫マニアになったように生来好奇心の強かった私が、³この自然のあやなす神秘的な光景に姉の何層倍も夢中になったのは当然のことだったろう。

私は半ズボンをはいていたが、そのズボンが濡れるのもかまわず海の中へ入って行って、何とかして⁴夜光虫の正体を知ろうと夢中に

なった。その青白い光は黒い波頭に乗ってきて、すつと溶けたと思うと、ふたたび幽鬼じみた輝きを波のまにまに漂わすのであった。うまく掌ですくったと思つた瞬間、その燐光は海水と共にこぼれ落ちてしまふ。ともあれ、正体がまったく分らないため、なおさら海一面が漠とした不可思議な美しさに満ち満ちていたと言える。⁶さながら妖精たちのしわざかのように。暗い海上はその妖精の微小な冷光のため、一面青白く光り、その波頭に浜辺の灯火や赤と緑のネオンサインの色が映えて、いっそう美々しいものになっていた。

だが、ついに私は捕えたのだ、その幻覚ともまがう燐光の^⑤源を。それは掌から滴り落ちたが、なおその一つ二つを私はしっかりと手に握りしめていた。

私は浜辺へ走って行って、映写機の傍らにつけられた電灯の下で、わくわくする気持ちで調べてみた。正直に言つてがっかりした。幻滅と言つてもよかつた。なぜなら砂にまじつて掌にあつたものは、米粒よりずっと小さな、白っぽい、中に黒点のある粒のようなものに過ぎなかつたからだ。これがあの魔法の光彩の主だとはとても信じられなかつた……。

北杜夫『母の影』(一部表記を改めています。)

- ※1 ちゃちⅡ安っぽい様子。 ※2 葦簾Ⅱヨシのくきを編んで日よけなどに用いるすだれ。
- ※3 明滅Ⅱ光がついたり消えたりすること。 ※4 光輝Ⅱ美しく輝く光。 ※5 燐光Ⅱ青白い光。
- ※6 驚愕Ⅱ非常に驚くこと。 ※7 夜光虫Ⅱ海中のプランクトンの一種。球形で浮遊し、発光する。
- ※8 あやなすⅡ美しい模様をつくる。 ※9 層倍Ⅱ「倍」を強めた言い方。 ※10 幽鬼Ⅱ幽霊。
- ※11 漠Ⅱはつきりしない様子。 ※12 美々しいⅡはなやかで美しいこと。 ※13 まがうⅡよくにいて見あやまる。
- ※14 幻滅Ⅱ夢から覚め、現実を見てがっかりすること。

(1) ①—⑤—の漢字の読みがなをひらがなで書きなさい。

(2) ¹わが人生の最高の一刻とも言っべき、歓喜と誇り とは「私」のどのような気持ちを表していますか。その内容として、もっとも適切と思われるものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 母に秘密で訪れた海浜で姉と二人だけで貴重な体験をした充実感。
- イ これから海浜へ子供たちだけで映画を見に行くのだという期待感。
- ウ 幽鬼じみた輝きを発する海の中へ夢中で入って行った時に感じた解放感。
- エ 見たこともない美しい燐光の正体をやつと手にすることができた満足感。

(3) 私たちが何か言葉を交したかどうかはすっかり忘れてしまっている。とありますが、その理由として、もっとも適切と思われるものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 波打際で何とかして夜光虫の正体を知ろうと夢中で捕えようとしていたから。
イ 夜光虫の光輝の美しさが記憶をしめていて、その他のことははっきりしないから。
ウ 映画を見に集まった人々や店の人の声で、姉の声がよく聞き取れなかったから。
エ ネオンサインの明るさや美しさに目がくらみ、姉の姿をとらえられなかったから。

(4) この自然のあやなす神秘的な光景とは、どのような光景ですか。文章中のことばを使って、二十字以上三十字以内で具体的に書きなさい。(句読点を含む。)

(5) 夜光虫の正体とありますが、その様子を表す部分を、文章中からさがし、初めと終わりの五字を書きぬきなさい。

(6) 青白い光とありますが、夜光虫の発するこの光とは対照的な光として書かれているものを、文章中からさがし、十六字で書きぬきなさい。

(7) さながらとありますが、このことばを正しく使っているものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 欠点はさながらにくめない性格。
イ 役所勤めさながら小説を書く。
ウ 草原はさながら海のようにだった。
エ 散歩さながら本屋に立ち寄る。

(8) この文章で使われている表現上の特徴としてもっとも適切と思われるものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 物音や人物の心の声をことばで表して、主人公の迷いや失望をえがいている。
イ 文末にくるべきことばを省略することで、主人公のさびしさをえがいている。
ウ ふつうの文とはことばの順序を逆にして、感動を強調し、印象を深めている。
エ 同じことばをくり返し使うことで、規則正しいリズム感を生んでいる。

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

何年かまえ、ホノルルを訪れる日本人観光客について、ひとつの調査がおこなわれた。ホノルルというところは、現代の海外旅行ブームの象徴のようなところで、年間に数十万人の日本人が訪れ、季節によつては、ワイキキなどの観光地は、日本の一部ではないかと思われるほどたくさん日本人によつて埋まってしまう。いったい、どんな動機で、なにを目的にして、こんなにたくさん日本人がハワイにやってくるのか——それをしらべるのが、この調査の目的であった。

いろんな答えがあった。しかし、回答に共通の特徴がひとつあった。それは、これら日本人観光客がひとりの例外もなく、ハワイについて、かなり正確な予備知識をもっていたということである。ほとんどすべての人が、たとえば、ダイヤモンド・ヘッドだの、パンチボールだの、といった有名観光地の地名を知っていたし、また、若い人たちのあいには、ハワイアン音楽の曲名をあげてください、という問いにたいして、すぐに二、三曲をあげることができた。なかには、ホノルルの地理から歴史まで、相当に詳しい知識をもっている人もいた。どうしてそんなにハワイのことをよく知っているのですか、という問いにたいしては、新聞・ザッシー・テレビなどのマス・コミ媒体をつうじて知った、という人もあり、また、旅行案内を読んで学んだ、という人もいた。さらに、じぶんの親戚だの友人だのから、ハワイに行つてのみやげ話をきいた、という人もすくなくなかった。もはや、現地のガイドなどが、いちいち説明するにはおよばないほど、これら日本人観光客のハワイについての知識は、ゆたかなものであった。かれらの頭のなかには、ハワイ情報がぎっしりつまっていた。ハワイに関するパンフレットは、ほとんどすべての人が読んでいたし、映画やポスターでハワイの風景を事前にみたことのない人は、ひとりもいなかった。

理屈からいえば、これだけよくハワイについて知っている人が、じつさいに、^②タガクの旅費を投入してハワイまでやってくる必要はどこにもなさそうであった。それなのに、なぜこの人たちがくるのか——その理由は、あとでのべる「体験情報」の問題とも関係するけれども、この観光客にたずねてみると、こういう答えがかえってきた——

「ハワイについて、ずいぶんいろんなことをききましたが、それがほんとうかどうか、たしかめたいと思って、来てみました。」

この答えは、きわめて象徴的に現代人のこころの構造を物語っているように思える。もともとの人間の認識の方法からいうなら、まず実在なり現実なりというものがあって、その認識をふまえて、イメージなり命題なり、あるいは理論なり、といった一連のシンボル構成がおこなわれるのが論理的な順序というものであった。A、それまでに、人からきいたことがほんとうかどうか、それをたしかめる、というのは、話が逆なのである。こんにちの観光客のあいには、まずさいしょにイメージがある。そのイメージは、ふんだんに提供されており、こんにちの人間たちの内部に、あふれるほど蓄積されている。そのイメージ蓄積の^③ケンショウの手段として、現実と

いうものが最終的に立ちあらわれてくるのである。^④こうした、イメージと現実との逆転現象についてブアスティンは、こう分析する——

「われわれの興味の大部分は、われわれの印象が、新聞・映画・テレビに出てくるイメージに^④二ているかどうかを知りたいという好奇心から生まれる。ローマのテレビの噴水は本場に『愛の泉』という映画のなかで描かれたようなものであるのか？ 香港は本場に『慕情』のようなのであろうか？ そこはスー・ウオンでいっぱいなのであろうか？ われわれは、現実によってイメージを確かめるのではなく、イメージによって現実を確かめるために旅行する。」

じつさい、こんにちの旅行者たちは、現地に足を踏んで、かつて絵ハガキでみたのおなじ風景をながめ、その現実が絵ハガキとそっくりであることをたしかめることで満足するのだ。絵ハガキが現実とそっくりであることを発見し、絵ハガキの製版だの発色だののすばらしさに感服する、というのなら、はなしはわかる。しかし、ここではその序列が完全にひっくりかえっている。われわれは、絵ハガキが現実に対応していることに感心するのではなく、現実が絵ハガキに対応していることに感心するのだ。われわれのかがえかたの基本テキストになっているのは、イメージの世界なのである。だから B が C のとおりでなければ、その D をおかしいとかんがえたりする。(中略)

たいていのことが、直接経験ぬきで、シンボリックにわかってしまうというのは、それじたい、たいへんに便利でありがたいことだけれど、それは、しばしば、シンボルと実在との関係をゆがめる。³そのひとつの例が、現代の子どもや若者たちのあいだにみられる「早熟」(early sophistication)の問題である。現代の若い世代は、情報爆発の衝撃によって、かれらが、これからさきのながい人生のなかで経験するであろう、もろもろのできごとだの、問題だのを、シンボリックにすつかり「先取り」してしまっているのだ。

たとえば、いまの平均的な大学生に、かれのこれからの人生のイメージをえがかせてみたらよい。かれらは、すくなくらず⁴憂いにみちた顔つきで、やがてじぶんは単調なサラリーマン生活にはいり、退屈な日々がつづくであろう、といったような予想を、かなりの現実性をもって語る。就職ということは、それほど大きなよろこびではないらしい。ついこのあいだまでの若者たちは、なにがなんだかわからないままに、とにかく職業生活という現実のなかにほうりこまれ、その現実の体験から、サラリーマン生活のよろこびや⁵カガしみを学びとったのだが、こんにちのようにサラリーマン小説だの文明批評だのがたくさん出版されるようになると、それを読むことによって、もう、じぶんの将来がぜんぶわかってしまったような気になるのも無理からぬことだ。まえにみたように、近代の小説というものは、「これからきたるべき事態にたいしての予備学習」であって、その「予備学習」によって、読者たちは将来にそなえたのだが、現代の若者たちにとって、将来のイメージは、「予備学習」ではなく、すでにはつきりとした輪廓をもった「現実」そのものであるらしい。

将来を、現実として先取りしてしまつたら、生きてゆくことじたいが無意味化する。これまでの人間たちは、人生のなかで、さまざまな経験を積み、さまざまなことを学びながら生きた。情報爆発時代の若者たちは、それに反して、非常に若いうちから、人生に飽きてしまっているのである。かれらは、シンボリックに、人生につかれてしまったのだ。

その根底にあるのは、イメージと現実との、逆立ち現象である。テレビの俳優の映像がさきにあつて、ほんものが、その映像に照らして評価される、というのは、かならずしも、正当な論理ではない。未来をシンボリックに先取りしてしまつたら、そして、イメージを現実ととりちがえてしまつたら、そこには空々漠々たる余白だけのこつて、しよせん、生きてゆく気力もくじけてしまうであろう。われわれは、イメージと現実の関係をひっくりかえすことによって、⁵これまでの人類が知らなかった不幸をいつのまにか背負っているかのようにもみえる。

加藤秀俊『情報行動』(一部表記を改めています。)

- ※1 ホノルルⅡアメリカ合衆国ハワイ州の州都。 ※2 ワイキキⅡホノルルにある海岸。
- ※3 ダイヤモンド・ヘッドⅡワイキキの東部に位置する火山。 ※4 パンチボールⅡホノルルの国立公園墓地。
- ※5 媒体Ⅱ伝達のなかだちとなるもの。 ※6 命題Ⅱ判断の内容を言語で表したものの。 象徴。
- ※7 シンボルⅡ目に見える形を持たないものを、他の形のあるもので表すこと。 象徴。
- ※8 ブアステインⅡアメリカの文化社会学者。 ※9 ローマⅡイタリアの首都。 ※10 テレビⅡローマの観光名所。
- ※11 愛の泉Ⅱアメリカの映画。 ※12 香港Ⅱ中国東南部の都市。 ※13 慕情Ⅱアメリカの映画。
- ※14 スー・ウオンⅡ香港を舞台にした映画の主人公。 ※15 空々漠々Ⅱ限りなく広い様子。

(1) ①—⑤—のカタカナを漢字で書きなさい。

(2) 1 ホノルルを訪れる日本人観光客について、ひとつの調査がおこなわれた とありますが、その調査の目的は何ですか。もつとも適切と思われるものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 年間に数十万の日本人が訪れるほどに日本人をひきつけるハワイの魅力がどこにあるのかということをしらべるため。
- イ 日本人観光客がひとりの例外もなく、ホノルルの地理や歴史まで、くわしい知識をもっているのかということをしらべるため。
- ウ ハワイについてこれだけよく知っている人が、実際にハワイまでやってくる必要があるのかということをしらべるため。
- エ これほどたくさんさんの日本人観光客が、どのような理由や目的でホノルルを訪れるのかということをしらべるため。

(3) 文章中の A にあてはまることばとしてもつとも適切と思われるものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ところが イ つまり ウ たとえば エ なぜなら

(4) ²イメージと現実との逆転現象 とはどのようなことですか。その内容を表している部分を、これより後の文章から三十六字で書きぬきなさい。

(5) 文章中の [B] [D] には、それぞれ「絵ハガキ」か「現実」のどちらかのことが入ります。それぞれに入ることばを書きなさい。

(6) ³ その ありますが、このことが示す内容を、文章中から二十字以内で書きぬきなさい。

(7) ⁴ 憂いにみちた顔つき とは、どのような顔つきですか。その内容としてもっとも適切と思われるものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 意志の強い、決意に満ちた顔つき。

イ ゆうつで、いつまでも心が晴れない顔つき。

ウ 未来への希望と喜びにあふれた顔つき。

エ 不平や不満のない、おだやかな顔つき。

(8) ⁵ これまでの人類が知らなかった不幸をいつのまにか背負っている とありますが、これはどのようなことを表していますか。その内容としてもっとも適切と思われるものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア なにがなんだかわからないままに、職業生活という現実のなかにほうりこまれている。

イ このさきの人生で経験するであろうことを、シンボルの先取りしてしまっている。

ウ イメージを現実ととりちがえることで、生きてゆく気力が完全に失われてしまっている。

エ 情報爆発の衝撃によって、若いうちから明るい希望をもつようになっていく。

(9) この文章で筆者が述べている内容としてもっとも適切と思われるものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 直接経験ぬきで、シンボルのわかってしまうということは、シンボルと実在との関係をゆがめ、じぶんの将来についての情報が得られなくなることである。

イ 現代人は、イメージと現実との逆転現象によって現実を体験する前にシンボル構成ができあがっているため、じぶんの将来について先入観による誤ったイメージを作り上げている。

ウ サラリーマン小説や文明批評によってあらゆる情報が手に入るこんにちでは、大学生はサラリーマンとしての自分の人生のイメージをえがけないまま社会人になっている。

エ こんにちの旅行者たちは、観光地に足を運んで、絵ハガキが現実とそっくりであることを発見し、絵ハガキの製版や発色のすばらしさに感動する。

オ こんにち、ふんだんに提供されているあふれるほどのイメージの蓄積は、現実を直接認識する必要性をより高めている。力ももとの認識の方法は、「実在・現実の認識→イメージ・理論などのシンボル構成」の順番であるが、現代人はこの逆となる。